

【編集後記】

紀州藩の「御雇い外国人」軍事顧問、カール・ケッペン

シーボルトやラフカディオ・ハーン、モース（大森貝塚発見）、フェノロサ（美術）、ジョサイア・コンドル（鹿鳴館設計）、エドモンド・モレル（新橋－横浜間の鉄道建設）、デ・レーケ（砂防治水治山）、クラーク（札幌農学校）…。彼らは、幕末から明治にかけて、欧米の優れた先進技術や学問・制度を導入し、殖産興業等を目的に、幕府や諸藩、明治新政府や府県によって招聘、高額な報酬で雇用されたいわゆる「御雇い外国人」である。彼らは、日本の近代化を推し進め、産官学の様々な分野にダイナミズムをもたらし、後世に及ぶ影響を残した。

このほど、和歌山県とドイツ連邦共和国との相互理解と交流を目的に設立された和歌山日独協会は、創立10周年記念事業として、「カール・ケッペン寓居之跡」の石碑を、和歌山大学附属小中学校駐車場の一角に建立した。碑は、高さ約1.8mの六角柱状、黒色の玄武岩で、碑正面の揮毫は、本県選出の経済産業大臣世耕弘成氏による。碑の裏面には、次のようなケッペンの履歴が刻まれている。

「プロイセン（現ドイツ連邦共和国）出身のカール・ケッペンは、紀州藩に招聘され、1869（明治2）年12月16日着任。ここを寓居とし、「交代兵」制度の軍隊を組織、プロシヤ式軍事教育を指導する。また、同郷の製靴職人ハイトケンペルらを招き、軍靴、軍服用綿フランネル、弾薬を製造した。これらはその後、皮革、繊維、染色、化学の地場産業の礎となり、今日に至っている。1871（明治4）年、廃藩置県となり解任されて帰国する。」

カール・ケッペンは、1833年、ドイツ統一前の小国の仕立屋に生まれた。1851年に国の徴兵でライフル大隊に入り、1866年の普墺戦争等に参戦、歩兵小隊長を務め、1867年退役した。ケッペンが、紀州藩の「御雇い」となった経緯について記したい。

今から150年程前の幕末期、紀州藩は、吉野十津川村での天誅組事件や長州藩出征等、度重なる戦いで藩財政は困窮していた。藩主茂承公は、財政危機を乗り切り、藩政を改革することを決意し、そのためには、まず第一に人物が必要であると考えた。茂承公は、「才学優長の者、国政悉く委任」した藩随一のプレーン、蘭学顧問の津田出と和歌浦の名刹、法福寺の住職で、自ら法福寺隊という民兵組織を率いる武芸十八般免許皆伝の達人、北島道龍に白羽の矢を立てた。

新政府から諸藩へ藩政改革の実行を促す布告が出されていたが、当時の紀州藩には大きな障害があった。徳川御三家である紀州藩は、朝廷から強力な幕府方と睨まれ、版籍奉還が進むなか、朝廷の疑念を解き、藩の朝廷への「恭順之主意」を示すには、もう一人、勤皇型の諸藩と密接な関係があり、力をもつ人が必要であった。

そこで茂承公は、当時、脱藩して坂本龍馬らとの志士の活動をへて、新政府に登用され外国事務御用掛となっていた陸奥宗光に使者を送り、礼を厚くして帰藩を懇請、陸奥もその誠意をくみ、明治2年、紀州に帰り、藩政改革に参画、和歌山藩欧州執事として、英国等で知識を深めるとともに、内外にわたって人材の斡旋等につとめた（この時、陸奥はまだ25歳だった）。

当時、大阪で武器貿易を行うレーマン・ハルトマン商会のカール・レーマンは、紀州藩から最新鋭のライフル、ドライゼ銃3,000丁の注文を受け、その調達にプロイセンを訪れていた。この銃は専用の弾薬の製造能力が必要で、軍隊の教官にプロイセン式の指導者が求められた。この時、ケッペンは、下士官を退き、レーマン商会の倉庫番をしていたが、新式銃に詳しく、藩の招聘に応じ、1869年、ドライゼ銃と共に来和した。翌年には、横浜在住のドイツ領事の推薦で軍事調練を担当する教官や製靴師、製革師が来日し、洋式製靴・製革の技術指導を担った。同じ頃、洋行中の陸奥は、ケッペン家を訪問、夫人に贈り物をしたという。

北島は既に隊を組織し、徴兵実施のひな形をつくっていたが、津田は、藩に軍務局を新設、「交代兵」という身分を問わない徴兵検査による徴兵制度を施行し、近代的な軍備の充実をはかった。兵制改革は、藩政改革の極めて重要な柱であり、陸奥は、彼等の徴兵法の案を朝廷に奏上し、紀州藩の勤皇の志を示すことにより、朝廷の嫌疑を解いた。そして、長らく京都で人質同様であった茂承公の帰藩が許された。

新政府に先立つ紀州藩の兵制改革の実施は、当時の外国公使にも注目され、明治3、4年には米英プロイセン等から、公使が軍艦等で来訪、ケッペンの指揮による600人大隊4個の統率された隊列で、行軍・発砲する様を見学した。プラント・プロイセン公使は、視察結果を本国の宰相ビスマルクに伝え、特旨により、ケッペンは陸軍少尉に進級した。洋式軍隊の創設は、化学、機械製造等の関連産業の萌芽となり、後の第一次世界大戦当時、和歌山市域は、「南海の工都」と呼ばれるに至ったのである。

（谷 奈々）